



OSAKA SLOVAKIA OPERA 2017

「コンサートオペラ」は、よく知られているアリアを中心にストーリーを再構成したオペラのダイジェスト版です。最小限の小道具と、表現力豊かなピアノの伴奏により、ソリストたちの歌を最大限に堪能することができます。

PROGRAM

第一部 コン서트オペラ「セヴィリアの理髪師」

(ジョアキーノ・ロッシーニ作曲 オペラ「セヴィリアの理髪師」ダイジェスト版)

■キャスト

ロジーナ (親の遺産相続人、美しい令嬢)	マリアナ・ホヘロヴァー (ソプラノ)
アルマヴィーヴァ伯爵 (ロジーナに恋をする若き貴族)	ドゥシャン・シモ (テノール)
フィガロ (人気者の理髪師、町の相談役)	マルティン・ポボヴィッチュ (バリトン)
バルトロ (医師、独身、ロジーナの叔父で後见人)	マリアーン・ルカーチュ (バスバリトン)

■あらすじ

時は18世紀、舞台はスペインの町セヴィリア。若くして親の莫大な遺産を継いだ令嬢ロジーナは、後见人である叔父、医師バルトロの家に身を寄せています。年が離れた独身の叔父は、美しいロジーナと結婚し、その財産も手に入れようと目論み、他の男性との出会いがないように監視しています。ところがある夜、ロジーナを見そめた若き貴族アルマヴィーヴァ伯爵が窓の下でセレナードを歌って恋を告白します。ロジーナは窓から紙切れを落とし、彼の名前を問うと、伯爵は彼女の心を試すため、貧しい学生リンドーロと名乗ります。そしてそこを通りかかった町の相談役、理髪師のフィガロの協力を取り付けます。フィガロはロジーナの手紙を伯爵に届けたり、ロジーナに近づく作戦作りを助けたりします。伯爵は助言に従って酔っぱらった兵士に変装し、バルトロ邸に泊めてもらうのですが、バルトロに怪しまれ作戦は失敗します。次にロジーナの音楽教師バジリオの代理としてやってきます。しかし今度もバルトロに怪しまれたので、味方と思わせるためロジーナが書いた手紙を彼に渡します。稽古中、気持ちを確かめ合った二人は、その夜、駆け落ちすることを決意します。フィガロもそれを助けようと、バルトロの髭を刺した際、館のバルコニーの鍵を手に入れます。バルトロは二人の関係を察知し、ロジーナに例の手紙を見せ、リンドーロが彼女を裏切ったと信じさせます。怒ったロジーナは自ら進んで叔父との結婚を決意します。夜になり、伯爵とフィガロがバルコニーから忍び込みますが、ロジーナは怒っています。伯爵が身分を明かし事情を説明すると、彼女も納得し、二人はやってきた公証人によって正式に結ばれます。心の広い伯爵はバルトロにロジーナの財産を残し、物語はめでたく終わります。

第二部 アリアとオペレッタの名曲

- | | |
|---|---|
| 1. ルサルカのアリア (A. ドヴォジャーク「ルサルカ」) | P. マツァーク=ソロトゥルコヴァー |
| 2. ロドリゴのアリア (G. ヴェルディ「ドン・カルロ」) | S. スヴィトック |
| 3. ノリーナのアリア (G. ドニゼッティ「ドンパスクワーレ」) | K. プロハースコヴァー |
| 4. トスカのアリア (G. プッチーニ「トスカ」) | P. マツァーク=ソロトゥルコヴァー |
| 5. ノリーナとマラテスタのデュエット (G. ドニゼッティ「ドンパスクワーレ」) | K. プロハースコヴァー、S. スヴィトック |
| 6. マリツァの歌 (E. カールマン「伯爵令嬢マリツァ」) | P. マツァーク=ソロトゥルコヴァー |
| 7. タシロの歌 (E. カールマン「伯爵令嬢マリツァ」) | S. スヴィトック |
| 8. ジュディッタの歌 (F. レハール「ジュディッタ」) | K. プロハースコヴァー |
| 9. ハンナとダニロのデュエット (F. レハール「メリーウィドウ」) | P. マツァーク=ソロトゥルコヴァー、
S. スヴィトック |
| 10. ロザリンダの歌 (J. シュトラウス「こもり」) | K. プロハースコヴァー |
| 11. ヴアラジュディンへ行こう (E. カールマン「伯爵令嬢マリツァ」) | P. マツァーク=ソロトゥルコヴァー、
K. プロハースコヴァー、S. スヴィトック |

